

▼カヌー競技の会場となる周東町中山湖で練習に励む足谷さん



「自分がやると決めたことだから、一度もやめたいとは思ったことはない」という足谷さんが、最も印象に残っている話なのが、1年生の夏に3年生と組んで出場したペアでのレースです。3年生にとっては負ければ最後となる大会で、準決勝進出を目前にしたゴール前、足谷さんがバランスを崩し

スポーツをする高校生の目標の一つインターハイ。この夏、岩国市を会場にフェンシング競技とカヌー競技が行われます。地元開催のインターハイでの入賞を目標に一生懸命に練習に打ち込んでいるのは、高森高等学校カヌー部キャプテンの足谷直紀さんです。小学校、中学校ではサッカーをしていた足谷さんですが、高校でも続ける

か悩んでいました。そんなときにカヌー部に勧誘され「どんなスポーツだろう」と興味が湧きます。先輩や顧問の熱い言葉に心を動かされ、中山湖まで練習を見学に行った足谷さん。目の当たりにしたカヌーのスピードに魅了され、その場で入部を決めました。そのときに2年後の地元開催のインターハイでの活躍を目標にしたそうです。

「悔しくて申し訳なくて涙が止まらなかった」といいます。引退する3年生が、2年生のいない新チームのキャプテンに指名したのは足谷さんでした。「引っこ込み思案で前に立つ方ではない。キャプテンは嫌だった」と当時は振り返りますが、それから徐々に、キャプテンとして何をすればいいのか考えるようになりました。「常に先頭でみんなを引っ張っていくことを心掛け、周りがよく見えるようになった」という足谷さんに、カヌーの魅力と目標を聞きました。



▲中国大会の賞状を手を高森高等学校カヌー部の仲間と



▲ただ練習するだけでなく速くなるための理論も定期的に学んでいる



高校カヌーの

集大成として

Vol.86

足谷 直紀さん
(平田在住)

高森高等学校3年。
1年の夏からチームのキャプテンを務め、部員のみならず、一緒に練習する高森みどり中学校の部員からの信頼も厚い。

